

れた最下小羽片が、よい特徴である。

(17) ムラサキオトメイヌワラビはツクシイヌワラビとホウライイヌワラビの雑種と推定されるもので、従来九州から知られていただけであるが、台湾の南湖大山にもある。台湾にはアリサニイヌワラビとホウライイヌワラビの雑種と推定されるもの(例えば田川基二 No. 771, KYO や中村武久 No. 702, TOFO)もあるが、本雑種との区別は難しい。

○クロカミシライトソウ (新変種) (原 寛) Hiroshi HARA: *Chionographis japonica* var. *kurokamiana* Hara

佐賀県黒髪山に産するシライトソウの一品はシライトソウとチャボシライトソウのやや中間の形質を示し、後者にいれられたこともあった。昨春馬場胤義氏は同山を訪れて十分な資料を送付され、同地のものはすべて同じ安定した形質をもっていることを確かめられたのでここにシライトソウの新変種クロカミシライトソウ(新称)として発表する。標本で見ると花被片の細い点が目立ちチャボシライトソウに近いように思われるが、生品では花被片が白色で先端がわずかに太まり葯も2室になっているものが多く、シライトソウに近縁である。

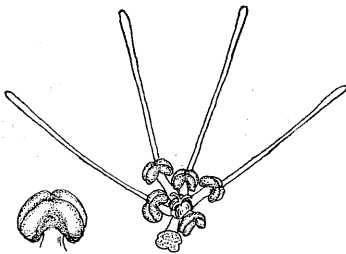


Fig. 1. A flower ( $\times 3$ ) and an anther (mag.).

*Chionographis japonica* (Willd.) Maxim.

var. *kurokamiana* Hara, var. nov. (Fig. 1)

Differt a typo tepalis filiformibus 4-12 mm longis albis apice leviter incrassatis ca. 0.3 mm latis et loculis antherae apice interdum confluentibus.

Typus. Kyushu: Chimachibô in monte Kurokami, Saga pref. (T. Baba, Mai. 24, 1970 in TI).

The plant here described shows somewhat intermediate characters between *C. japonica* and *C. Koidzumiana*. So in my revision of the genus (in Journ. Jap. Bot. 43: 257, 1968), I cited the specimen under *C. Koidzumiana* but made a note on p. 262 under *C. japonica*. This variety is endemic to Mt. Kurokami where is isolated from other localities of *C. japonica*.